

千曲川 氾濫

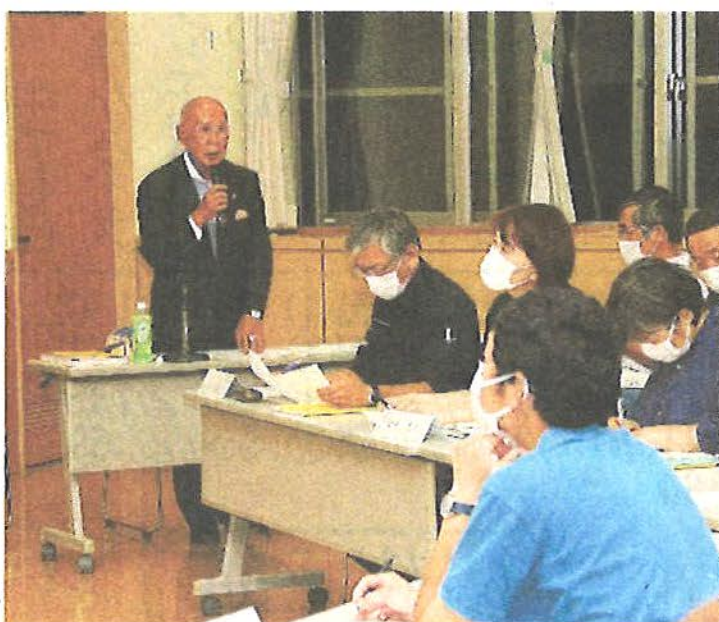
長沼地区の将来 生かせる資源は

長野 まちづくり委が会合

2019年10月の台風19号災害で被災した長野市長沼地区の将来像を考える「まちづくり委員会」の6回目の会合が13日夜、市古里公民館であった。都市開発やまちづくりに詳しいさくら都市総合研究所（長野市）主席研究員の清水秀幸さん（69）＝長野市大町

＝が、長沼で今後生かせそうな資源や具体策を提案。住民ら約40人が聞いた。

清水さんは冒頭、「まちづくりは今すぐ成果が出るものではなく、50年後を生きる人が評価するもの」と語った。今後は人口減少が予想され、



長沼の今後のまちづくりに
ついて語る清水さん（左）

長沼では市全体の割合より顕著に人口減少が進むと推測。進学や就職で長沼を出た「子や孫に戻ってきてもらうことが一番大事」と強調した。

清水さんは長沼城跡などの史跡に加え、農業や地域で盛んなスポーツも文化的な資源になると指摘。台風で浸水し、8月に復旧した市長沼体育館で子どもたちのバスケットボール大会を開催することやリಂಗゴ狩りなどの農業体験を提案し「地域を掘り下げ、商品になるものを検討してほしい」と呼びかけた。

まちづくり委員会は本年度末までに、まちづくりの将来像や計画をまとめる方針。